

北海道教育委員会教育長 様

北海道森高等学校長 楯 石 保 史 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基本的生活習慣、規範意識を定着させ、自らを律する心や多様な他者を思いやり尊重する心の育成に努める。  
 (2) 個性の伸長と進路実現を目指し、自ら学ぶ意欲・態度の育成に努める。  
 (3) 自他の生命を尊ぶ態度、健康・安全・福祉に係る意識を高揚し、たくましい心身の育成に努める。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>①全教員によるICTの有効活用            高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）としてデジタル等成長分野を支える人材育成を目標にした学習を教科等横断的に実施し、教員全体のスキルアップと実践的な有効活用を図った。</p> <p>②地域の資源や人材等を活用した学習の充実            今年度も地域を題材にして、地域の人材と共通の目標を持ちながら、協働していくことにより、生徒が郷土の良さを再発見し、故郷に愛着を持ち、地域の持続化・活性化を真剣に考える機会を創出した。</p> <p>③より適切な科目選択の実現            次の年次の科目選択に向けて、宿泊研修、T-base 授業見学、科目選択説明会（放課後）で早期から説明し、自分事とし捉え、自分の将来を意識しながら科目選択ができるように工夫した。</p>	<p>・生徒のポジティブな変化として生徒たちの間からネガティブな言葉が減り、学校生活や進路に対して前向きな姿勢が見られるようになった。今年1年で、生徒たちの心情は大きく改善・変化したと評価できる。</p> <p>・再出発への意欲として入試面談を通じ「もう一度最初からしっかり勉強し直したい」という強い意志を持つ生徒が多い。</p> <p>・教育活動への評価として、特に「探究活動」など、近年の特色ある取組が生徒たちにポジティブに届いており、森高校を志望する理由の一つとなっている。</p>
改善方策	<p>・DXハイスクールにおける講師の授業実践を教員でも実施できるようにスキルアップや学習コンテンツの充実を図り、学校独自にICTを活用し、授業展開ができるようにしていきたい。</p> <p>・地域と学校が目標を共有し、一体となって地域の若者を育て、地域を支える人材育成を目指していきたい。さらに取組を発展させ、地域になくてはならない学校へと成熟させていく。</p> <p>・科目選択説明会を実施し、どの科目が自分に必要であるかを考えさせる時間を十分に取らせ、適切な選択ができるように配慮する。</p>	
生徒指導	<p>①一貫性がある生徒指導の実践            従来の教師主導の生徒指導から、生徒のセルフチェックの向上や教育相談を軸にしたカウンセリングにより生徒指導の転化を図った。生徒理解を深めながら親身な支援を続けることにより生活態度の大きな改善が見られた。</p> <p>②いじめや不登校等の未然防止と日常的な教育相談の推進            教員全員による面談を年3回実施し、その情報を共有した。生徒と教員の理解が深まるにつれ、生徒からの相談等が増え、いじめ等の未然防止や落ち着いた生活を送る要因になった。</p> <p>③家庭や地域との連携協働と生徒の主体性の育成            学校祭などの学校行事では地域や家庭の協働により郷土愛を深めた。さらに探究学習等により生徒の主体的な活動が多く実施され、人前で自信を持って発表できる力が育成された。</p>	<p>・積極的な選択として「仕方なく森高校を選ぶ」のではなく、「森高校で頑張りたい」という目的意識を持った生徒が増えている。</p> <p>・「森町の特色ある学校づくり」の予算を単に学校が使うだけでなく「生徒に使い道を考えさせる」など、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育に紐づけた活動に協力したい。</p> <p>・高校入学後、さらに成長できる「伸びしろ」の大きい生徒たちであるため、入学後の継続的なサポートと手厚い指導を期待している。</p>
改善方策	<p>・生徒と教員の関係が良好になり、ストレスが緩和されたことにより生活面の改善が図られたと思われる。今後も生徒理解を深め、生徒のつまづきを教員間で共有しながら、専門家や関係機関とも連携し学校全体で組織的に対応していく。</p> <p>・学校・家庭・地域等がよりよい関係づくりを進め、連携協働しながら、生徒の主体性を引き出した授業や学校行事等の一層の充実を図る。</p>	
進路指導	<p>①総合的な探究の時間や産業社会と人間を核とし、教育計画を見直す            自己の在り方生き方や社会的意義を深く考え、自己判断で自分の将来を考えさせる機会を創出する。</p> <p>②学校の実態を見据えた進路業務の推進            進路指導が組織的に進めるように、進路指導部が主導して役割分担を整理する。</p> <p>③家庭・地域と連携した組織的な進路指導の推進            町内企業、関係機関の方々の協力の下、実施することができた。また、各種検定の受検補助や学習コンテンツの提供などを通じて、進路活動の拡充を図ることができた。</p>	<p>・「進学校へのシフト」だけでなく、地元の一次産業（林業、漁業等）と接続した学びをPRし、地域への愛着を高めて欲しい。</p> <p>・再出発への意欲を持ち、「もう一度最初からしっかり勉強し直したい」という強い意志を持つ生徒が多いことがわかった。</p> <p>・教育活動への評価：特に「探究活動」など、近年の特色ある取組が生徒たちにポジティブに届いており、志望理由の一つとなっている。</p>
改善方策	<p>・進路選択に直結したインターンシップを実施する</p> <p>・面接練習等の進路指導は年次だけの対応では不十分であるため、進路指導部が主導して、業務に余力のある教員にも加わってもらうなど指導方法の改善を図る。</p> <p>・家庭学習の時間や受験への心構えの定着するために、教員の役割分担を明確にし、スタディサプリー等を活用しながら、自己学習の定着を図る。</p> <p>・総合的な探究の時間と産業社会と人間について、特別委員会を立ち上げて、本校の実態に即した計画に一新する。</p>	
公表方法	<p>・評価結果をまとめて、教職員に対して会議にて公表し、具体的に説明した。</p> <p>・外部には本校ホームページ上に掲載した。</p>	

## 3 添付資料

- (1) 令和7年度学校経営シラバス評価（教職員）  
 (2) 令和7年度年度学校評価（自己評価・教職員）  
 (3) 令和7年度学校評価（学校関係者評価・保護者）